

新しい博物館情報システムについて

田邊由美子

概要

博物館情報システムは、県民資産である博物館資料を効率的に管理・活用し、千葉県の豊かな自然や文化の魅力、インターネットを通じて県民へ発信するためのものです。平成4年度の供用開始以降、平成9年度にホームページの公開を開始、平成14年度にデジタルミュージアムの公開を開始、平成18年度にメールマガジンと動画の配信を開始、平成24年度にホームページをリニューアル、というように順次、機能を拡張してきました。平成29年度末には、県立博物館全館のホームページのCMS化と資料データベース機能の強化を行い、資料データベースは3月から、博物館ホームページは4月から新システムでの運用が始まりました。

ここでは、資料データベース機能の大きな変更点について紹介したいと思います。



新しくなった中央博物館ホームページ

資料DBの変更点① 資料分野の統合

旧システムの「動物（哺乳類・鳥類以外）」と「動物（哺乳類・鳥類）」が統合され「動物」に、「古文書」「民俗」「埋蔵文化財」「美術工芸」「絵はがき」「古写真」が統合され「人文」になりました。その結果、新システムは「動物」「植物・菌類」「岩石」「地学景観画像」「古生物」「人文」「年中行事」「工業・科学技術」「美術作品」「図書・刊行物」「雑誌」の11分野となりました。

人文分野の統合はかなり大きな変更点ですので、その理由について説明します。理由①、「歴史資料」や「人類学資料」「模型」など、既存の分野に当てはめることのできない資料があり、長らく登録できずいたため。このような場合、まず考えられる方策は分野の追加ですが、次に述べる理由②により、採用しませんでした。

理由②、人文系資料には、明確に分野をあてはめることができない資料があるため。例えば「出征旗」は、「民俗資料」とも「歴史資料」とも取れます。分野が細分化されていると、担当者によって登録分野が変わってしまう恐れがあり、分野の追加は、さらなる混乱につながると考えました。理由③、「〇〇家旧蔵資料」などの一括資料には、古文書、美術工芸品、民俗資料など様々な分野のものが含まれている場合があり、分野が細分化されていると、一括資料にもかかわらず資料番号が一連とはならず、管理上支障があったため。この他にも細かな問題点があり、それらの問題を解消するためには、現時点で県立博物館全体を見渡したときに、分野を統合することが最善策と考えられました。

変更点② 地図情報の追加

各分野とも、資料に関する緯度・経度情報が地図上にドットで示されるようになり、視覚的に資料の場所（採集場所や所在場所）が示せるようになりました。

変更点③ 位置情報の公開に係る柔軟な対応

位置に関する情報の公開段階を、資料ごとに設定できるようになりました。具体的な採集場所や個人情報など、公開に注意が必要な情報について、個別に対応が可能です。

変更点④ 辞書機能の強化

手入力の手間を省くため、学名辞書などの辞書機能が強化されました。

変更点⑤ 公開画像の大容量化

インターネット環境の進展に伴い、大容量の画像の公開ができるようになりました。

まだまだ問題点はあるかと思いますが、職員にとっても県民にとっても使い勝手の良いシステムを目指して、今後も、改良を重ねていきたいと思っています。新しくなった博物館情報システムを、ぜひご活用ください。



新しくなった資料データベース

(歴史学研究科)